

1964(昭和 39)年～

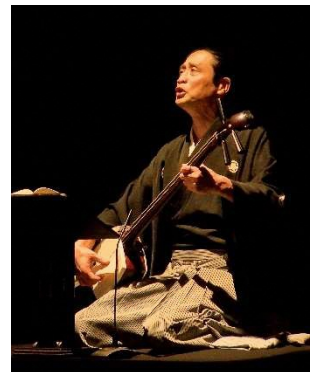
1. 経歴・狭山市との関わり



所沢市に生まれ、5歳の頃に狭山市に転居。現在、笹井在住。狭山市立水富小学校、同西中学校卒業。本名は小峰孝男。10歳の頃からお囃子の笛を、20歳の頃から長唄の三味線を習う。國學院大学文学部史学科在学中に、二代目若松若太夫の公演を聴き深い感銘を受け、入門を決意する。二代目からは「御祝儀宝の入船」など基本的な曲、短い曲をいくつか教わったが、長いものは稽古を付けてもらうことはなかった。師匠が高座で演じている姿を見て、語りと三味線をいろいろ工夫しながら練習し、しぐさや表情などを研究した。大学卒業後、東村山市役所に就職し、市史編さんや東村山ふるさと歴史館の学芸員などの仕事に携わる。仕事の傍ら説経節の研鑽を積み、1998(平成 10)年に三代目若松若太夫を襲名する。52歳で勤めを辞め、説経節に専念する。笹井豊年足踊り保存会の会長を務め、狭山市指定文化財である笹井豊年足踊りの継承、後継者の育成にも積極的に取り組んでいる。

2. 主な業績

板橋区を拠点に多数公演に出演し、高い評価を得ている。芸能を高度に体現できる者として、2000(平成 12)年、東京都指定無形文化財(芸能)保持者、板橋区登録無形文化財説経浄瑠璃保持者に認定される。2002(平成 14)年には韓国の全州市で開催された「第二回全州世界ソリ祝祭」に日本代表として出演。2004(平成 16)年より「若松若太夫独演会」を板橋区立郷土芸能伝承館で開催している。2007(平成 19)年、埼玉県文化ともしび賞受賞。



現在は、年1～2回の独演会の他、秩父市白久の串人形座や三芳町の竹間沢車人形保存会の人形芝居公演で説経節を語っている。八王子車人形西川古柳座とも時折共演する。また、日本舞踊や里神楽とのコラボレーションなど新たなジャンルへの挑戦も始めている。第24回狭山市民芸術祭では、竹間沢車人形公演の地語りを熱演。多くの市民に説経節の魅力を伝えた。

元博物館学芸員という経歴を生かし、説経節や民俗芸能の研究者としても活躍している。また、日本大学芸術学部で口承文芸論の講義を持ち、学生に説経節を聴かせ、物語の解釈を教えている。

3. 特 筆

「説経節は死者の思いを描く芸能。話に登場するのは神仏やすでにこの世にない人々で、自分は語りを通して死者からのメッセージを現代に伝える存在」と語る。説経節を聴く機会の少ない現代、伝わりにくいことも多いと言う。氏は「決まっていることは変えられないが、言葉の言い回しを工夫し、出来るだけ分かりやすく語ることがを心掛けている。新しい風を入れて現代に合わせて語ることが大切なのではないだろうか」と語った。

〈インタビュー〉 若松若太夫氏

〈参考資料〉『江古田文学 102 号』